

孤風院の“劇場空間化”プロジェクト

天井の漆喰塗り・足湯メンテナンスによる空間の一体化

建築学科1年 堀 淳一 担当教員：田中 智之

1. 今年度の企画

現在、孤風院は木島千嘉さんらご家族の好意で、建築を学ぶ学生のための学習の場として提供されており、毎年、孤風院の活動を通して学生や教員、専門家が協働して新しい保存・継承のかたちを考えている。そんな中今年度は主に3つの活動を行った。

- ① 以前、制作した足湯のメンテナンス作業。
- ② 回路部天井の漆喰塗り仕上げ。
- ③ 回路部天井への点検口づくり。

学生がそれぞれの班に分かれ活動を進めた。

2. 活動内容

① 足湯のメンテナンスでは、実際に足湯を制作した時の先輩方と交流を図りながら、活動を進めた。水漏れが発見されたため、原因を探りながら塗装をし直す事になった。業者の方と塗装剤について話し合いを行い、指導していただきながら、学生が下塗り、上塗りを行った。



上塗りの様子

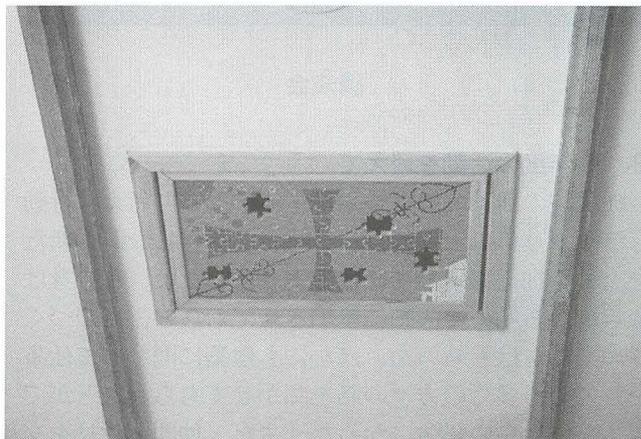
② 回路部の漆喰塗りは、今年度のメインの活動であった。6月から熊本県内にある漆喰塗り仕上げの建築物見学ツアーを行い、イメージをふくらませた。7月には、左官職人さんの事務所を訪れ、左官技術を学

ぶための勉強会を開催した。8月に実際に孤風院の回路部天井の漆喰塗りを行った。足場にのぼり、職人さんとともに2日にわたり仕上げていった。

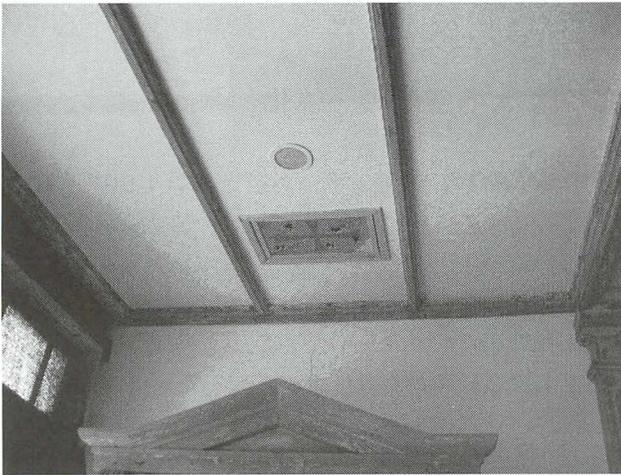


漆喰塗り

③ 点検口づくりは、漆喰塗りで仕上げた天井に点検口を作るというもの。普段はふたをしておくため、ふたの施工方法やデザインについて約2カ月間、議論を続けた。施工方法は2パターン、デザインは3案に絞られ、すべて制作し、実際に孤風院の天井に合わせてみて最も合うものを採用することになった。最終的には、下の写真のようになった。



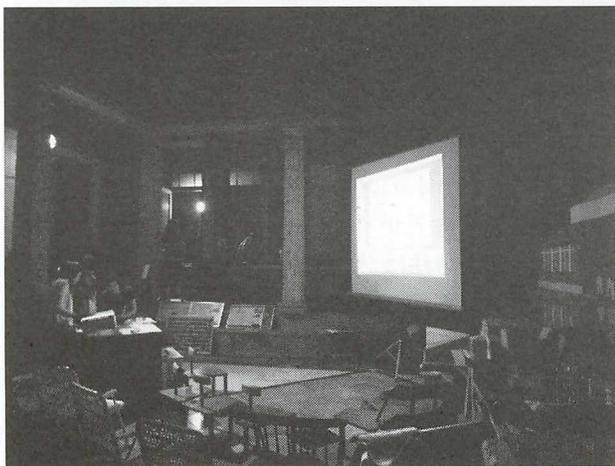
決定したデザイン



仕上げた天井と点検口

今では上の写真のように仕上がり、孤風院の雰囲気は全く違うものとなった。

さらに、今年度は二度のオープンハウスを通じて、活動内容の発表を行ない、職人さんなどとの交流を図る機会も設けた。また、建築家の方や、建築評論家の方をお招きして講演会も行うことができた。



講演会

3. 今年度の活動を終えて

孤風院の活動では、学生が主体となって考え、行動し築100年以上の貴重な建物を、保存しながら新たなものを加え継承していけるようにしたい。私自身は今年度から始めて活動に参加させてもらい、ものづくりの楽しさはもちろん、ほかにも建築に関わって仕事をしている多くの方々の話を聞かせてもらうことができ、とても良い経験になった。また、仲間と意見を交わしながら新たな考え方に気づいたり、協力すること

の大切さも感じる事ができた。

これからの活動については、まだ漆喰で仕上げられていない部分があったり、補修が必要な部分があるので、そのことも含め、話し合いを行いこれからも活動を続けていきたい。

最後になりましたが、この活動はたくさんの方々の協力のおかげで行なう事が出来ました。学科の先生方や、ものクリ委員の先生方はもちろんですが、私たち学生に学習の場として孤風院を提供してくださっている木島家のみなさん、左官技術を指導していただいた職人さんの方々、塗装や木材業者の方々など多くの人に協力していただきました。本当にありがとうございます。将来私たち学生が建築の道に進む中で、孤風院の活動で得た経験を生かしていきたいと思っています。



孤風院の外観